

自分で働ける間は仕事を続けるのが良い。
幾つになっても自分で出来ることはする。

農事組合法人 国府野菜本舗

■〒370-3517 群馬県高崎市引間町225

■TEL.027-373-1121

■<http://kokufuyusaihonpo.com/>

●代表理事 眞塩 光枝さん



Q 仕事を続け、キャリアアップをする上で周りの方々との印象深いエピソードがあれば教えてください。

A 一番理解してくれていたのは夫の母でした。母は農村女性として生きてきた人なので、同性としては非常に厳しく、また、良い先輩でした。私が計画を立てて母に話すと、何か言いながらも、そっと後押ししてくれた人かなと思います。

直売所を作るときには、地域の男性の反対もありました。女の人が金銭的な裏付けもなくやるといのは大変だから、農協に加工施設を作ってもらい、パートで勤めればいいじゃないかという声でした。心配してくれて言っていたのでしょけれど、やはり自分達でやりたかったです。

Q 子育て中などの周囲からのサポートはありましたか。

A 育児の時には家族や親戚からサポートを受けました。農業をしながら、JA女性部の会長や役員を引き受けた時には「私はこういうことで役員を引き受けて、でも農業もやらなくてはならないので何とか手伝ってほしい」と声をかけると友人達が快く受けてくれました。それを乗り越えた時に、これは大々的に事業としてもやっていけないのではないかと自信がきました。私の何にかえがたい財産は友人です。

Q 仕事を継続して、起業をして良かったと思えることを教えてください。

A 時の流れに身を任せ、気が付くと私の人生はこうであったと思えます。時代の流れの中で、生産、加工、販売と取り組んで来て、自分が働ける間は仕事を続けるのが良い、そして、自分達がそれぞれ頑張っているという生き方ができるのは素晴らしいと思います。我々団塊世代が若い人達に生き様を示していかなければならない。したがって、いくつになっても自分ができることは自分でして、自分でお金が稼げたら稼いでいくことは、特に定年のない自分たちが作った職場であるから可能であるのだと思います。

Q 法人を立ち上げてやる気を感じるときはどんな時ですか。

A やはり法人を立ち上げた時に周囲の見る目が違ってきました。法人として信頼関係ができることによって取引も多くなりました。それから、事業を長く継続するためには法人化する必要がありました。法人化しなければ出来高払いのような方法で済むかもしれないが、皆のやる気が高まりません。法人化することできちんとした規律を作ることにつながりました。

Q 女性が働く中で心がけて欲しいと思うことは何でしょうか。

A 仕事と家庭を両立していくのは大変です。それにはやはりパートナーの協力が不可欠です。結婚というのは1つの契約のようなもので、若い人がこれから仕事と育児を両立していくためには、お互いの広い意味での契約が大事であると思います。そしてお互いが信頼しあえることで、思いやりも生まれると思います。

学生の声

「農村地区の女性の夢を叶えたい」と語る姿が印象的だった眞塩さん。国府野菜本舗という直売所を起業し、地域の女性の先頭に立って活動をしていらっしゃる姿はとても輝いてました。様々な仕事と育児や家事の両立に関するエピソードを伺い、それにはパートナーや周りの人の協力が不可欠であることを再確認しました。「この職場だから最後まで自分らしく働ける」と仕事に誇りを持ち、働く姿にとても感銘を受けました。

